

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【植竹中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査およびさいたま市学習状況調査の数学の「知識・技能」において、正答率を各学年で自校結果より1pt向上させる。	⇒ 授業毎の確認小テスト、単元の確認テストを通して、生徒の基礎的、基本的な知識・技能の定着をはかる。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査およびさいたま市学習状況調査の数学の「思考・判断・表現」において、正答率を各学年で自校結果より1pt向上させる。	⇒ デジタル教科書の活用及び、タブレットを利用して考え方を生徒が表現していけるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を83%以上にする。	⇒ ワークやスタサプの活用を通して生徒が主体的に学習に取り組む態度を養う。

次年度に向けて
(3月)

目標・策の設定
(4月)

年度末評価

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	<p>調査結果分析(2月)</p> <p>①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等</p>	
思考・判断・表現		
主体的に学習に取り組む態度		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

結果提供(2月)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+7pt、数学±0ptであった。国語の文章を比較し表現の効果について考えたり、文章の内容のまとまりを捉え、文と文の関係について理解したりする生徒が多かった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果を比較し、数学+9ptであった。思考する問題の正答率が上がり、課題学習を取り入れた問題に答える授業実践の成果と考えられる。より具体的な日常生活や社会の事象を考察する場面を取り入れ、事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明する力を伸ばしていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は93%で目標値を上回った。今後も授業の中で生徒が主体的に学ぶ場面を継続的に設定していく。

調査結果分析(7-8月)

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③分析共有(児童生徒の実態把握)



④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	
中2	
中3	

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

中間評価(9月)
目標・策の見直し